

冬の部優秀賞十首

はやばや かみ め たくぼく

早早と神に召されし啄木を

ちやうじゆしや

長寿者とせし

きげき よ

喜劇に酔ひしれ

盛岡市 鈴木 操

ゆき

雪あかり

ちい ともしび

小さき灯火 あつまりて

ねが

願いをこめし 復興への道

ふっこう みち

盛岡市 石川 節子

げんとうき

厳冬期

さけかいぢぞうたぼう

酒買地蔵多忙なり

はだかまい

み ものあつ

裸参りに見る者熱い

盛岡市 三澤 信裕

「また歩こうね」と賀状くる

なかつがわ

中津川は、いま

はくちよう がつしようぶたい

白鳥の合唱舞台

盛岡市 昆野 寛顕

凍りつく空気を

裂いて割るごとく

裸参りの行列が行く

はだかまい ぎようれつ ゆ

盛岡市 中島 久光

中津川鮭のそ上を共に見し

夫逝きたりて

ひとり訪る

盛岡市 兼田 紀美子

かつて住む地に降り立ちて仰ぎ見る

岩手の山は

銀の輝き

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

ゆきば　くろ　ひとみ　かがやか
雪晴れに黒き瞳を輝せ

たくぼくかた
啄木語る

ひと
女にひかれり

高崎市 小池 敏夫

た　あと
食べた後 スキップできない わんこそば

おなかをすかせて
またちようせんだ

盛岡市 遠藤 みのり

はな　さ
アマリリス花は咲けども

ちやうていきおん
もりおかの最低気温

じゆうど
マイナス十度

盛岡市 鈴木 充

〔講評〕震災復興への願いや盛岡の風景、行事が歌に詠まれています。それはまた時代を
窺わせ、今を大切にし、自由で、素直な心が表現されていると思います。

平成二十五年三月選 冬の部

投稿数 七十一首

選者 山本 玲子 氏